

世界史

アツプデート

奴隷貿易の実態

- ・アフリカから南北アメリカ大陸、カリブ海地域への奴隷貿易の研究に、1960年代から本格的に統計学的手法が取り入れられた。現在では奴隷貿易データベースが公開され、実態解明が加速している。
- ・従来、大西洋を越えた奴隷の総数は4000万~5000万人との見方もあ

ここに注目!

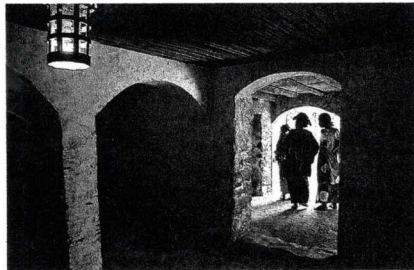
ったが、現在では1000万~1300万人前後と推計されている。

- ・英国で奴隷貿易禁止法が成立して200年となった2007年前後から、奴隷貿易、奴隷制の歴史が改めて注目されている。また、現代になお残る奴隷制とも言うべき強制労働への対策強化が叫ばれている。

大西洋奴隷貿易年表

16世紀	ブラジルやカリブ海地域に黒人奴隷を労働力とする砂糖プランテーションが広がる
17世紀後半	英国の大西洋奴隷貿易が本格的に始まる
1781年	ゾンゲ号事件
1807年	英国議会で奴隷貿易禁止法可決
1833年	英国で奴隷制廃止
1999年	大西洋奴隷貿易データベースのCD-ROM版公開

推計 1000万 ~ 1300万人



アフリカ・セネガルのゴレ島で、船に乗せられる前の奴隷が詰め込まれていた「奴隷の家」の内部(2005年撮影)

年代に1339万人、80年代には、さらに別の研究者が978万人との推計値を出した。90年代からは多くの研究者が、奴隷貿易の資料収集に努め、それらを共同で集約し、データベース化が進められた。航海ごとに、船名、船主、出港地、乗せられた奴隷の数、奴隷を降ろした港、降ろした人数などが網羅され、99年にCD-ROM版が公開された。現在はオンライン化され、大西洋をまたぐ奴隷船の航海データ3万6000件以上を収めている。

奴隷貿易で目的地に上陸した総人数に関して、かつては4000万~5000万人との推計もあった。ところが米国人歴史家のフィリップ・カーティンは1969年、1次史料を統計学的手法で分析して約956万6000人と推計した。その後、別の研究者が70

15世紀から大西洋方面に進出を始めたヨーロッパ人は、当時、珍重されていた砂糖の原料となるサトウキビの栽培に適した土地を探し求めた。スペイン王室の命で新大陸を探検したクリストファー・コロンブスは1493年、カリブ海の西インド諸島にサトウキビの苗を持ちこんだ。

フリカから黒人奴隷を導入した。英国、フランス、オランダなども加わって各国が行った植民地獲得競争、貿易の中で、アフリカから南北アメリカへの奴隷輸出と、カリブ海地域やブラジルからの砂糖輸出は、膨大な利益を生み出した。

を忘れてはならない」とも指摘する。

データベースの活用で、時代によってどの国の奴隷船が多かったかなどの傾向も研究が進んだ。また、サトウキビのほか、コーヒー、綿花、カカオなどの他の作物の農場での奴隷の使役実態にも光が当てられている。

が発生し、世論に衝撃を与えた。ニュートンの影響を受けた下院議員らの粘り強い運動により、1807年、奴隷貿易禁止法が可決された。33年には奴隷制廃止法が成立した。

奴隷貿易禁止法が成立して200年となった2007年の前後には、禁止に尽力した下院議員らの業績をたたえる映画が制作され、様々な記念行事が行われた。

奴隷貿易に詳しい布留川正博・同志社大名誉教授は「注目すべきは、目的地に上陸した奴隷の推計総数が、以前の推計より大幅に減っていることだ」と言う。かつて言われたほどの規模ではなかったことが明らかになる一方、「生きてたどり着いた奴隷以外に、航海中やアフリカ奥地から海岸部に連行される途中に亡くなった奴隷も多数いたこと

英国は17世紀後半に主立アフリカ会社を設立し、奴隷貿易に本格的に参入するや、貿易の中心的役割を果たすようになり、カリブ海の西インド諸島にあった英国領などに奴隷を送った。だが、1764年に元奴隷商人の英国人牧師ジョン・ニュートンが、自伝を出版して奴隷の悲惨な境遇を訴えた。彼が奴隷貿易に関わったことへの悔恨を込めて作詞した賛美歌「アメイジング・グレイス」が広まり、英国社会で奴隷貿易、奴隷制への批判が高まった。

カリブ海の旧英領諸国の歴史に詳しい京都府立大の川分圭子教授は、今後の課題として「これまであまり語られてこなかった、奴隷貿易・奴隷制廃止後の西インド諸島の英国領での砂糖産業や解放奴隷の動向に注目すべきだ」と言う。

カリブ海地域で解放された奴隷は約66万7000人だったが、英本土に移住するなど苦難の道を歩んだ人々も多い。この地域の英国領の大半は1960年代から80年代にかけて独立。厳しい国際競争にさらされた砂糖産業は、現在ほとんど姿を消している。

81年、英国の奴隷貿易船ゾンゲ号が航路を間違えてさまよい、奴隷の一部を生きたまま海に投げ込む事件

が成立した。

2000年となった2007年の前後には、禁止に尽力した下院議員らの業績をたたえる映画が制作され、様々な記念行事が行われた。

カリブ海の旧英領諸国の歴史に詳しい京都府立大の川分圭子教授は、今後の課題として「これまであまり語られてこなかった、奴隷貿易・奴隷制廃止後の西インド諸島の英国領での砂糖産業や解放奴隷の動向に注目すべきだ」と言う。

カリブ海地域で解放された奴隷は約66万7000人だったが、英本土に移住するなど苦難の道を歩んだ人々も多い。この地域の英国領の大半は1960年代から80年代にかけて独立。厳しい国際競争にさらされた砂糖産業は、現在ほとんど姿を消している。

(藤原善晴)

参考文献 川分圭子・堀内真由美編著『カリブ海の旧イギリス領を知るための60章』(明石書店)、布留川正博『奴隷船の世界史』(岩波新書)、ジョン・ニュートン『「アメイジング・グレイス」物語——ゴスペルに秘められた元奴隷商人の自伝』(中澤幸夫編訳、彩流社)